

とらおん



2025 年 12 月 16 日 NO.683

「御同朋の社会をめざす運動」東海教区委員会 広報部
〒460-0018 名古屋市中区門前町1番23号

東海教区教務所内

TEL 052-321-0028 FAX 052-332-4097

e-mail info@tokai-hongwanji.net

ガチャガチャからひろがるご縁 ～ジャータカルタシール～

名古屋別院では、ご縁づくりの一環としてガチャガチャを設置しました。
子どもたちなどお参りいただいた方にコインを渡しています。



ガチャガチャの中身は「ジャータカルタシール」です。

これはHIROMARU PROJECT さんによる「ジャータカルタ」をもとにしたもので、お釈迦さまのご誕生前の物語（ジャータカ）を通して「やさしさ」や「思いやり」など、仏さまの教えを楽しく学べるよう工夫されています。

この思いに共感し、名古屋別院ではオリジナルのシールを制作し、ご縁づくりの一環としてガチャガチャを設置しています。お参りの子どもたちにも大変喜ばれています。

Contents

ジャータカルタシール紹介	P1
こころばなし	P2
中央委員会報告	P3
特集	P4.5
声/書棚/編集後記	P6

ケンカして
おいしいところ
が無くなった



みなさまのお寺でもご縁づくりの一環として「ジャータカルタシール」いかがですか。

興味のある方は、是非名古屋別院までお問い合わせください。

【参考】

「ジャータカルタ」

HIROMARU PUROJECT



『阿弥陀様って

ほんとにいるの?』

結城 大智(額田組願照寺)

「本当に阿弥陀様はいるのですか」あるお寺で
ご門徒さんから言われました。この方は、このお
寺の仏教婦人会の会長さんでして、ご法座終了後
に質問にこられたのでした。

私は、なぜお寺にお参りするようになったの
ですか?と尋ねました。すると、「祖母が、毎日
お念仏する人でした。小さい頃には祖母と一緒に
お寺参りしていたので、お寺は身近な存在でし
た。祖母はいつも、お浄土に参らせていただくと
お念仏を喜んでいました」と言われました。

そして「あれから 70 年近く経ち、私も年を取
り今、死ぬのが怖いのです。できれば祖母のよう
に、お念仏を喜び、お浄土参りを喜びたい。でも、
そんな心境にはなれません。だから、本当に阿弥陀
様はいるのか知りたいのです」と言われたので
した。

私は「今お念仏が出てきてくださいますね。こ
のお念仏が私を救うとよんでくださる阿弥陀様
そのものですよ」とお答えしました。すると「そ
んなことは何度も聞いてきました。そう言われて
も、自分の念仏は自分の声でしかありません。自
分の声を仏様だと思い込んだらいいのですか?」
と言われるのです。

その疑問はもっともです。確かに、私がとなえ
るお念仏は私の声です。私は少し考えてみまし
た。その時に「私はなぜお念仏をしているのだろ
うか?」とふと思ったのです。本来お念仏するよ
うな身だったかという、全くそんなことありま
せん。お念仏するどころか、仏様のことなんて気
にも留めない生き方をしてきました。

けれども、現に今、お念仏申しているのです。
改めて考えてみるととても不思議なことです。本
来お念仏する身でない者がお念仏しているとい
う事は、「私にお念仏をさせるというお働き」が
あるからではないでしょうか。しかし、自分が自
分の力で念仏をしていると思っている間は、その
「私にお念仏をさせるというお働き」には目は向
かないし、お念仏は私の声でしかないのかもしれ
ません。

ですから私は「なぜ今お念仏がでてきてくださ
るのでしょうか。お互い、元々お念仏をするよう
な身でないのではないのでしょうか。その私からお
念仏が出てきてくださるという事は、私にお念仏
をさせるというお働きがあるという事ではない
ですか。そのお働きこそ阿弥陀様のお働きです。
そのところを大切にお聴聞させていただきたい
ですね」と申し上げたことです。

親鸞聖人は『行文類』に元照律師のお言葉をご
引用され「わが弥陀は名をもつて物を接したま
ふ」(註釈版 180 頁)と示されました。阿弥陀様
はお念仏となって私と接してくださるのです。阿
弥陀様が私の所に来てくださっているからお念
仏が出てきてくださるのです。そして、そのお念
仏は「どうかお浄土に生まれてきておくれ」と頭
を下げ私を招いてくださっている仏様のお姿
です。本来お浄土に参られるはずもない私が、か
たじけなくも、そのお招きにあずかりお浄土に
参らせていただくのでした。

今南無阿弥陀仏となって
私をよんでくださっている
のです。そのことを仰がせ
ていただくばかりです。
なんまんだぶ。



「御同朋の社会をめざす運動」中央委員会報告 松野尾浩慈(額田組明願寺住職)

2025年7月24日、伝道本部において本年度第1回の「御同朋の社会をめざす運動」中央委員会が開催されました。オンライン併用で中央委員41名が参加し、実践運動の推進状況、宗門重点プロジェクト、教区からの意見具申について報告と協議が行われました。

■報告① 宗門重点プロジェクト「貧困の克服 ～ Dāna for World Peace」

教区および沖縄特区を対象としたプロジェクトリーダー研修が予定され、理念周知度は66.3%と前年度から向上。「子どもたちの笑顔のために募金」第6回の集計は1,808万819円となり、児童福祉施設や社会的養護家庭への支援が続いています。

■報告② 「戦後80年」平和貢献策の展開

戦後80年を迎え、『宗報』3月号に「平和に関する論点整理（戦後80年版）」が掲載。4月には平和フォーラムが開催され、総長より平和メッセージが発信されました。ご門主が沖縄・長崎・広島で戦没者追悼法要に出向されるなど、宗派としての平和への取り組みが広がっています。

■報告③ ジェンダー平等の推進

社会部内に「ジェンダー平等推進課」が新設され、施策の体制が強化。人権啓発僧侶研修会には研修課題としてジェンダー平等が追加されました。過去帳の性別記載についても目的の明確化と多様な選択肢をふまえた見直しが検討されています。

■報告④ 点検報告（第5期1年目・2024年度）

教区では81.3%が「順調・ほぼ順調」と回答し、特に「貧困の克服」では子ども食堂支援や居場所づくりの取り組みが増加。一方、組では「順調・ほぼ順調」が51.6%にとどまり、参画者の固定化や減少、活動の偏在が課題となっています。

■報告⑤ 過去帳開示事案（長野教区）

2025年1月のテレビ放映で過去帳情報が公開された件について、長野教区より再発防止策が報告されました。各組や教化団体での周知徹底が進められており、宗派としても基準見直しや動画研修の整備が進められています。

■協議事項：高岡教区からの意見具申

教団の戦争協力の歴史に学ぶ研修の現状と方向性について、僧侶研修での扱い、連研や中央教修における学びの強化、「つどい」の再開、平和センター（仮称）の開設や資料アーカイブ化が提起されました。戦後80年を機に歴史認識を共有し、僧侶・門信徒双方で学びを深める必要が確認されました。

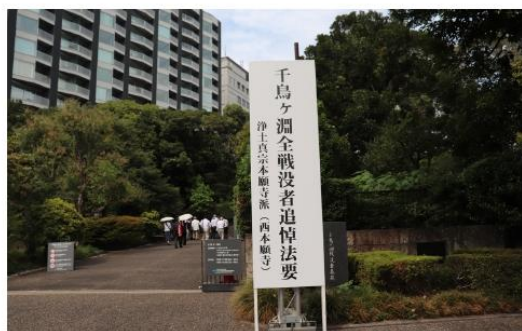


戦 後80年、あらためて戦争と平和を考える ～千鳥ヶ淵全戦没者追悼法要～

1、千鳥ヶ淵全戦没者追悼法要

千鳥ヶ淵全戦没者追悼法要に参拝しました。ご存じの方も多いと思いますが、毎年9月18日、国籍・思想・信条などを超えて、すべての戦没者を追悼する宗派の恒例法要として、国立千鳥ヶ淵戦没者墓苑において修行される法要です。

戦後80年にあたり、ご門主ご親修にて修行されました。内外からの来賓の他、全国からの団体参拝など1,500人が参拝しました。この様子は宗派の公式ウェブサイトにて同時配信されました。



(参考) 9月18日は柳条湖事件（満州事変）の起きた日です。1931年夜、日本の関東軍による「柳条湖付近での南満洲鉄道爆破事件」をきっかけに、満州事変（のちの日中戦争へつながる大きな転換点）が始まりました。

平和の鐘・追悼法要

仏のみ教えと平和への決意を全国に響かせることを願う「平和の鐘」が撞かれました。

全国各地の寺院にも梵鐘や喚鐘を撞くことが呼びかけられました。当日の同時刻に実施されたご寺院も多いのではないのでしょうか。

法要はご門主ご親修にて正信念仏偈（音楽依用）をお勤めされました。



～追悼法要に出勤して～（佐藤浩紹教務所長にコメントをいただきました）

戦後80年という大きな節目を迎えた年のご法要にあって、散華頭を勤めさせていただくという、極めて有り難いご勝縁をいただきました。当日は9月とはいえ酷暑の中、大変多くのご参拝があり、墓苑の隅々にまでお念仏が響き渡っていました。このご法要が毎年9月18日にお勤まりになる意味、昭和56年以来毎年、国立墓苑でお勤まりになってきた歴史をいただきながら、あらためて悲慘な戦争をくり返してはならない、平和の実現に向けて私たち一人ひとりが行動していこうという力強い決意を多くのお同行と共にさせていただいたことでした。

2、戦後80年の節目に立って

戦後80年という大きな節目を迎え、私たちは改めて「平和とは何か」を問い直す時に立っています。戦争を知らない世代が増える今、過去の出来事はしだいに遠くなっていきます。しかし、失われた命や残された悲しみが消えることはありません。その重みを受けとめ、どのように語り継ぎ、未来へ手渡していくのか——。この節目は、私たち一人ひとりが向き合うべき大切な問いを静かに投げかけています。本願寺派の戦後80年メッセージおよび宗派公式の見解をもとに、以下のようにまとめました。

私が見つめる戦後80年の現在地

戦後80年という節目にあたり、本願寺派の歩みと現在の姿勢を手がかりに、自分がどこに立っているのかを見つめ直したいと思います。園城総長は「先人たちが語り継いでくださった、戦争による辛く苦しい体験を無駄にせず…この瞬間さえも世界の各地で行われている戦争や紛争での人々の苦しみや悲しみに思いを寄せ…次の世代に伝えていくことが私たちの教団の大切な役割」と述べています（『戦後80年にあたって』2025）。この言葉は、私たちが何を継承し、何を語り続けるべきかを明確に示しています。

一方で、宗派は戦時中に国家の戦争遂行に協力した歴史を公式に認め、「慚愧すべき歴史」と位置づけています。教学が時代の空気に流され、結果として人々の苦しみに寄り添えなかった事実を直視してきました。この反省を土台として、宗派は「真の平和の実現を目指す姿勢」を明確に打ち出しています。

これらの見解は、過去の悲しみや反省だけではなく、いま私がどの方向に歩むべきかを示しているのではないのでしょうか。いのちを尊ぶという教えを基準に、戦争の歴史と現在の世界の苦しみを重ね合わせ、未来への歩みを考えること。その地点に、いま私の“現在地”があるのだと思います。

私たちに何ができるでしょうか

戦後八十年の節目にあたり、わたしたちは過去に目をそらすわけにはいきません。戦時中、すべての寺院が積極的に戦争を支持したわけではないでしょう。イヤイヤながら協力した、あるいは自らの立場で精一杯だった——そんな寺院も少なくなかったと思います。とはいえ、たとえ強制の下であったとしても、戦争反対の声をあげることができなかった（届かなかった）宗派としての責任を免れることはできないのです。だからこそ、私たちは今、過去をしっかりと見つめ直し、その反省を生かして「これから何ができるのか」を考え、未来へ向かって歩み始める必要があります。その思いから、私たちが今できることを考えました。

01 過去に学ぶ

歴史の事実を正しく知り、痛みを忘れずに語り継ぐこと。無関心を恐れ、学び続ける姿勢を持つこと。

02 いのちを尊び、実践する

どんな立場の人のいのちも、等しく尊ばれる社会をめざす。その思いを日々の暮らしや言葉にあらわすこと。

03 対話を続ける

意見の違いを超えて、聴き合い、語り合うこと。その積み重ねが平和の礎となるはず。

04 ちいさな行動を大切に

差別や偏見に気づき、やさしい選択をする。地域で助け合う。自分の身近な場から変えていく。

おわりに

千鳥ヶ淵全戦没者追悼法要では宗門関係学校の生徒の優秀作文が発表されました。次代を担う若者が、平和への強い思いを読み上げてくれました。その思いに力づけられた私たちも、まずは身近な場から「できること」を始めましょう。決して戦争を繰り返さないために。



この記事は「戦後80年にあたっての平和を願うメッセージ（2025）」「平和に関する論点整理」（戦後80年版）などを参考にしました。

『心に残る言葉』

心に残る言葉はいくつあるだろうか。

若い頃、1人暮らしをする私に母は時々荷物を送ってくれていた。野菜やら日用品の中に、まぎれるように入っていたメッセージが今でも心に残っている。

「あなたらしく生き抜いてください」

ペラペラの紙切れに書かれたその言葉に何度も背中を押された。何十年もたった今では、もはやレジェンド入りと言っても良いだろう。

先日、母をはじめ家族みんながお世話になった方がご往生された。遺言ともいうべきか、最後にお会いしたときに何となく言われた一言が日常のそこかしこに顔を出す。

「てきとうにしなければや」

全力で生き抜かれたその人は言う。どこか無理をしているようにうつったのだろうか。些末なことに心を囚われている姿を見抜かれたのか。

何十年も心にとめたはずの、母の言葉と共にこれからも私に問いかけ続けてくださるに違いない。

「あなたらしく生き抜いてください」

「てきとうにしなければや」



～お坊さんの書棚～

『描いて場をつくるグラフィック・レコーディング』

2人から100人までの対話実践』 編著 有廣悠乃 出版 学芸出版社

タイトルにもあるグラフィック・レコーディング（グラレコ）とは、会話や会議などの記録の仕方のひとつ。文字と併せてちょっとしたイラストや絵文字のようなものも使って記録すると、文字数を大幅に減らし、その時の雰囲気や情景までも残すことができます。

この本は多くの方の実践の共著で編まれています。ご自身の目的や環境に合った「グラレコ」が見つかり、場づくりに役立つ一冊です。私自身、グラレコを著者のひとりの三宅正太さんに学んでいます。「寺報にグラレコを用いることでより親しく読みやすいものに」と学び始め、ご門徒さんから「読みやすくなった」「温かみを感じる」などと感想をいただき、効果を実感しています。

また、実際ご門徒さんとの対話を目の前でグラレコすることで、「あ、この話はさっきもしたな」とお互いが視覚的に確認し、堂々巡りを避け、何を話したかったかが明確になったこともあります。

三宅正太さんいわく、「絵がうまくないほうが、グラレコはうまくいく」そうです。



～編集後記～

先日、住職継職法要を含む御法事をお勤めいたしました。その御法事で事前の予想と一番違っていたのは、子どもイベントに合わせて来てくれたゴンゴンちゃんの人気ぶり。登場する子どもたちが駆け寄って人だかりができ、皆とびっきりの笑顔で写真にもうつっていました。その時からひそかにゴンゴンちゃんに憧れと嫉妬の心が芽生えています。私もゴンゴンちゃんのように皆に愛される住職をめざしたいと思います(笑)



広報部 加藤